

会員におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の地区ニュースは、①福岡地区学術部長交代の案内、②「福岡地区新入会員研修会（当直業務支援講座）」の報告をお届け致します。また、2023年9月3日（日）に純真学園大学にて福岡地区主催の第32回福岡県医学検査学会を開催させていただきます。ぜひ参加をよろしくお願い申し上げます。

①福岡地区学術部長交代の案内

福岡地区学術部長に2023年1月より国立大学法人九州大学病院病理部山口 知彦技師が就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

②「福岡地区新入会員研修会（当直業務支援講座）」の報告

2022年度福岡地区新入会員研修会及び当直支援講座

日時：令和4年9月3日（土）14:00～16:35

会場：Web開催

内容：1) 為になる！当直業務支援講座（6部門）

一般、血液、輸血、生化学、微生物、生理

2) 学術部門紹介（3部門）

病理細胞、遺伝子染色体、総合管理

研修会参加：61名（福岡地区新入会員27名）

※ 参加された新入会員の中から、3名の方に感想文を書いていただきましたのでご紹介致します。（施設番号順掲載）

香田 彩華技師（国立大学法人 九州大学病院）

9月3日にオンラインで開催された福岡地区新入会員研修会を受講させていただきました。今回の研修会では当直支援講座や学術部門紹介が行われ、当直支援講座では一般、血液、輸血、生化学、微生物、生理の6つの部門の講義がありました。それぞれの部門で基礎的な内容から学ぶことができました。私は現在、検体検査系の当直に入るためのトレーニングを行っているのですが、特に生化学や血液・凝固の講義は大変為になりました。凝固や溶血など検体不良により検査結果にどのような影響があるのか、異常値が出たときにその検査結果が正確か判断するにはどういったことを確認する必要があるのかを知ることができました。当直業務は慣れない業務が多く不安でいっぱいですが、とにかく焦らずに落ち着いて状況

を把握して対応していきたいと思います。また、対応に困ったときは遠慮せずに待機当番の方に電話連絡することが大切だと思いました。

当直業務以外にも私は通常業務においてローテーションで各部署をまわっているため、当直で担当する検査以外についても部門ごとの講義をきいて多くのことを学ぶことができました。講義で聞いたことをしっかり復習して業務に役立てていきたいです。特にまだ経験していない輸血や生理検査は、今回の講義で頂いた資料を活用して学んでいきたいです。各部門の講義の終わりに紹介があったようにこれからも色々な部門で勉強会などが開催されるので、積極的に参加しようと思います。

最後になりますが、今回福岡地区新入会員研修会を開催していただきありがとうございました。まだ1年目で学ぶことが多く、日々の業務で精一杯ですが、こういった勉強会や研修会など学ぶ機会がたくさん準備されているので、できるだけ参加し多くの知識や技術を身につけて業務に活かしていきたいです。

鋤崎愛稀技師（公立学校共済組合 九州中央病院）

この度、令和4年9月3日に開催された福臨技福岡地区新入会員研修会に参加させていただきました。新型コロナウイルス感染症による影響でオンラインでの開催となりましたが、当直支援講座の中で必要となる知識や考え方など多くのことを学ぶことができました。

当直支援講座の資料は、私達新人向けに当直で役に立つ知識と気をつけるべき点がとてもわかりやすく簡潔にまとめてあり、業務中は常に当資料を携帯しています。当直ではルーチン検査で扱うことの無い検査を行うことで判断に迷うことが多いこと。また、全ての検査を1人で行うため複数の検査を同時に行う必要があり、優先順位を立て状況に応じて適切に判断することが難しい点であると感じています。私の当直業務で印象的に覚えていることは、初めての当直で微生物検査のグラム陽性菌か陰性菌かの判断に迷い、様々な資料を持ち出して調べたことです。この時の判断のポイントなど不安な点を今回の講演で解説していただいたため、その後は以前よりスムーズに判定できているように感じます。判断に迷う時間が短くなれば、仕事に時間的余裕が生まれるため、大きなトラブルが起きた際の対応もしやすくなるため、最初の頃の当直に比べ不安が軽減されました。

また、当直業務に限らずルーチン業務でも活かせることが多くありました。私は、検体検査室に配属されており、検体検査は検体の観察や測定結果の違和感を見逃さない事が重要となります。そのときに具体的に違和感を持つべきポイント、そういった事が起こる原因、その後の対応などを改めて整理でき、また、体験したことのない症例についても解説があったため、新たな知識も身につけることができました。

現在、当直の回数も増えてきましたが、まだまだ未熟な部分が多く、一人前に仕事をこなすことはできていません。しかし、今回の研修会で学んだことを活かし、少しずつでも自分の実力をつけていけるよう検査に取り組んでいく思いです。

最後になりますが、私達新人会員のためにこのような研修会を開催していただきありがとうございました。

鶴田朱音技師（医療法人社団高邦会 福岡山王病院 予防医学センター）

この度、9月3日にオンラインで開催された福岡地区の新人研修会において当直支援講座を受講させていただきました。この講義では一般・血液・輸血・生物化学・微生物・生理の6部門の講義を受講し、様々なことを学ぶことができました。

私は4月から予防医学センターに配属され、主に生理検査の業務に日々励んでいます。他の分野はほとんど経験がないので、今回の講義では各分野の基礎的な内容から学ぶことができました。正しい検査結果ではないことを判断するためのポイント、異常値が出た時に考えられることなど正確な検査データを臨床に報告するために必要な知識・対処法など、とても参考になることを多く教えていただきました。検体が正しく採取・保存されていることがどの検査でもとても大切ということを改めて学び、再確認することができました。

特に今回の講義の中で、生理部門の話がとても興味深かったです。普段の検査で心電図検査を行うことが多く、正しく心電図波形を読むためには、きれいな心電図波形を記録することが重要だと学びました。緊急時でも焦らずに、正しい位置に電極を付け、アーチファクトをできるだけなくし早く正確に記録することを意識して検査を行うことが大切だと改めて実感しました。心電図異常から疾患を予測し検体の結果も結び付けて考えていけるように知識をつけていこうと思います。機械の判定に頼るだけでなく、自分の目でもしっかり確認し判断していきたいです。

また、それぞれの部門講義の終わりに研修会や勉強会の開催案内もしていただき学べる機会が多く設けられていることを知りました。今回の講義を受けて、当直業務では落ち着いて状況を把握し、分からないことは相談することが大切であると思いました。

最後になりますが今回新人研修会を開催していただきありがとうございました。このような研修会や勉強会に積極的に参加して知識・技術を身に付け業務に活かしていきたいと思います。

発行責任者

福岡県臨床衛生検査技師会

福岡地区/福岡地区長 新田 誠